

■実践事例 7 【自閉症・情緒障がい】小学校・第6学年（Gさん）

集団への参加や提示した活動に応じることが難しい児童に対し、自己理解を促したり、適切な方法で表現したりすることを目指した自立活動の指導

1 指導内容を設定するまで

実態把握



学級担任

Gさんは、マイペースなところがあり、時間どおりに行動することが苦手です。



ゲームやインターネットに強く興味を持っていて、パソコンを使った授業には意欲を見せる反面、家庭では夢中になってしまい、生活のリズムの乱れにもつながっているようです。

興味や関心の偏りやこだわりがあるようですね。学習の様子や対人関係はどうですか。



特セン所員



学習に対して、以前できたことでも、気持ちが乗らないと取り組もうとしないことがあります。
また、書く活動が苦手で避ける傾向があります。



聞かれたことに対して答えることは苦手ですが、自分が思ったことを自由に話すことは好きです。ただし、一方的に話し続けたり相手の話を聞くことが難しくなったりすることが多いです。

気持ちが乗らない時や自分の意向が通らない場面では、どのような様子が見られますか。



物事をうまくできなかつたり、自分の思いどおりにならなかつたりすると気持ちが不安定になり、周囲の人に不適切な言葉や行動で訴える様子があります。

そのような場合、どのように対応しているのですか。



気持ちが落ち着いてから、その時の気持ちを聞いていますが、うまく説明できないようです。また、望ましい行動などを言葉で説明していますが、実際の行動を改善することは難しいです。

自己の状況の把握や説明されたことを自分のことと結び付けて捉えること、周囲とのやり取りなどに課題があるようですね。



課題の整理

目標の設定



Gさんは、物事を客観的に認識することが難しいようです。
そのため、自己理解が十分にできておらず、自分の苦手なこと
や感情をうまく表現することが難しいと考えられます。



自分の状況や気持ちを理解して適切な方法で表現することや気
持ちを切り替える方法を身に付け、支援を求めたり集団の場に参加
したりできるようになってほしいと考えています。

行動の背景にある困難さを踏まえた視点から、課題や目標が整
理されていますね。



項目の選定



各項目の内容を見ると、「心理的な安定(2)」は、変化する状況を
理解して適切に対応するなどの行動の仕方を身に付ける内容だと
分かりました。



また、「人間関係の形成(3)」は、自分の得意なことや不得意なこ
と、自分の行動の特徴などを理解する内容だと分かったので、こ
れらの項目の内容を基に指導内容を検討しようと思います。

課題や目標に向けた指導をイメージして、**区分や項目の内容と
照らし合わせながら、項目を選定**していて良いですね。



指導内容の設定



振り返りシートを活用して、私と話しながら日常生活場面や学
習場面で取り組めたことに加え、その時の自分の気持ちを振り返
るようにしたいと考えています。

Gさんが、状況に応じた対応ができるようにするために、まず
は、**自分のよさや困難さに気付く**ということですね。



自分の行動や気持ちを、言葉だけで表すことは難しいので、数
値化した指標から当てはまるものを選び、私とのやり取りを通し
て、伝えることができるようにしたいと考えています。

Gさんが自分の気持ちを表現したり、気付いたりできるように
手立てを工夫していますね。困ったときに先生や友達に支援を求
めることにもつながりそうですね。



2 指導内容等の整理

情報収集	Gさんの障がいの状態や長所、課題等について情報収集（詳細は39ページ）						
	実態把握	自立活動の区分に即した整理	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
興味のある活動への過度な集中から、生活リズムが乱れやすい。			他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えられず、暴言や暴力などの不適切な関わり方をしてしまう。	衝動を抑えることや自分の状態の把握が難しく、同じ失敗を繰り返してしまうことがある。	周囲の状況を理解できるが、求められたことに応じたり、経験を生かして対応したりすることが苦手である。	書字の動作にぎこちなさがあり、両手を協調させた動きの苦手さが見られる。	興味や内容の偏りはあるが、話すことは好きである。
			運動は好きで、誘いに応じて参加できる。	教師や学級の友達と関わるができる。		書字に比べ、マウスの操作やキーボードでの入力は得意である。	相手の意図を理解したり、自分の考えを言葉で正しく伝えたりすることは苦手である。

課題の整理	- 自己や周囲の状況を客観的に捉え、経験を生かして対応することが難しいため、学習活動に取り組めなかったり、周囲の人に不適切に関わったりする様子が見られる。 - 自分や他者の気持ち、周囲の状況を把握できるようにするとともに、適切な方法での表現や行動ができるようになる必要がある。
-------	---

目標の設定	- 学習等に取り組んでいるときの自分の気持ちや感じ方を把握する。 - 自分の意思や心情を適切に表現する。
-------	---

項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

指導内容の設定	【心(2)、人(3)】	【心(1)、人(1)(3)、コ(2)】	【心(2)、人(2)、コ(2)(5)】
	① 生活場面や学習活動において、取り組んだことを振り返り、自己の状態や対応の方法を理解できるようにする。	② 活動の始めの場面や自己の振り返りなどで、教師が児童の気持ちや意思を可視化し、自分の気持ちを適切な方法で表すことができるようにする。	③ 学習等の見通しについて、活動の時間や量の目途を確認したり、取組に対する意思を伝えたりできるようにする。

※赤枠に関する指導については、「3 指導の実際」を参照

3 指導の実際

◇ 指導内容①に関する指導

「気持ちの5段階表」の作成と修正

- ・「1」を落ち着いた状態の基準とし、各段階の気持ちや行動とどのように対応するとよいかを、児童と相談して決めた。
- ・児童が、数値と状況や行動を結び付けられるよう、教師が具体例を説明するとともに、振り返りを通して修正した。

「気持ちの5段階表」を活用した振り返り

- ・イライラして取り組めなかったことや、休憩することにより気持ちを切り替えて取り組めたことなど、具体的な活動場面を基に、その時の気持ちや行動の状態、対応の状況を5段階に当てはめて振り返るようにした。

気持ちの5段階かいひょう		
	こんな時には、	こうしたらいい。
5	ものをこわす 人をたたく	お母さんにすぐで でんわする
4	おこっている たたく	とめてほしい
3	イライラしている 少しおこっている	しずかなばしよで休む ゆっくり話してもらう
2	ふつう	話をよく聞く
1	よい気分	あそんだり べんきょうする

※児童と相談して作成した表

【気持ちの5段階表】

◇ 指導内容②に関する指導

「今週のがんばり表」を活用した振り返り

- ・1日を振り返る場面を短時間で設定した。
- ・頑張って取り組めたことは「◎」や「○」など、児童が記号を記入し、対話を通して引き出した児童の言葉や気持ちを教師が記入するようにした。
- ・「△」を付けたことについて、「気持ちの5段階表」を使って具体的に振り返るようにした。

12月5日から始まる1週間 今週のがんばり！ 名前 ○○ ○○					
	5日(月)	6日(火)	7日(水)	8日(木)	9日(金)
ひとりの学習			◎	○	○
みんなで学習	◎	◎		△ 遅ってしまった	
じりつの学習		◎			◎
今日のひと言	遅くなった	面談が 楽しかった	がんばった	反省した	武田信玄が おもしろかった

今週のかんそう 次がんばること！
がんばった

※斜体部は教師が記入した部分

【今週のがんばり表】



特セン所員

児童が自分の取組を振り返り、表現できるよう、記号を用いたり対話をしたりする工夫が良いですね。
児童が自分の思いを言語化できるよう、【感じ方チェック】を使って、感情などを数値化して表現させながら、教師が理由を聞き取ることも有効です。

つかれてる	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	げんき
かなしい	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	うれしい

【感じ方チェック】

【指導のポイント】

- 行動や気持ちについて、言語化することの困難さを踏まえ、数値化した指標（気持ちの5段階表）を児童と話し合って定め、児童が表現しやすくすること。
- 生活や学習場面について、振り返る視点を項目に位置付け、「◎、○、△」などの記号を用いて教師と対話をしながら振り返り、自分のよさに目を向けながら、自分の取組の状態や行動等に気付くことができるようにすること。

【指導の記録】[○…成果 ▲…課題]

(1) 児童の変容

- 児童が、「あの時は『3』だったけれど、先生に声を掛けてもらって少し休憩したら、その後取り組めた。」など自分の状態に気付き、うまく対応できたことを振り返ることができた。

(2) 指導の評価・改善

- ▲ 自己理解を深め、自分の気持ちを相手に適切に伝える手段を身に付けられるようにするため、「気持ちの5段階表」と「感じ方チェック」を組み合わせ活用するなど、更なる指導の充実を図る必要がある。